

ソリン岬簡で夕立を降らして暑氣を凌がす等誠意のこもつた歓待に努められた、加古川町は近時著しい發展を示し、あるが更に近き將來に於て市制を施行せんとする希望を抱いてゐる、所謂一の青年都市であるので町長始め有志者の元氣は實に素晴らしいものである、吾等は深くその歓待を謝し同町の發展を祈りつ、午後三時此町を辭し去つた。(省吾記) 内務大臣の祝辭左の如し

加古川橋架換工事其工ヲ竣へ本日茲ニ竣工ノ式典ヲ舉クル

ニ至レルハ邦家ノ爲洵ニ欣幸トスル所ナリ

抑本橋ハ帝國ノ交通幹線ニ屬スル二號國道ニ架設セラル

大正十三年八月十一日

内務大臣 若槻禮次郎

モ其創設古ク構造亦現時ノ交通情勢ニ伴ハス遺憾尠カラサリシカ會々加古川改修工事施行セラレ爲ニ橋梁扛上ノ必要ニ迫リタルヲ機トシ毫カ架換ヲ計畫シ精巧ナル技術ト多額ノ費用トテ以テ銳意工事ノ進捗ヲ圖リ今ヤ全ク其功ヲ告クルニ至レリ惟フニ其堅牢ナル構造ハ輓近發達セル交通ノ要求ニ適應シ産業ノ振興ニ資益スル所更ニ大ナルモノアラム冀クハ其維持管理ニカメ以テ長ニ其ノ利用ヲ完フセラレムコトヲ一言所懐ヲ述ヘテ祝辭トス

富士川橋竣工式

富士川橋竣工式の舉行せられる前日十六日に興津に來着し
てゐられた内務省側の大臣代理鈴木參與官、松木港灣課長、
牧内務省土木試驗所長、中川東京土木出張所長、安藝横濱土

木出張所長、岩澤技師の多數に、更に道路改良會から水野
八時半自動車を列ねて興津を出發東海道を東に式場に向ふ。

富士川橋竣工式の舉行せられる前日十六日に興津に來着し
てゐられた内務省側の大臣代理鈴木參與官、松木港灣課長、
牧内務省土木試驗所長、中川東京土木出張所長、安藝横濱土

木出張所長、岩澤技師の多數に、更に道路改良會から水野
八時半自動車を列ねて興津を出發東海道を東に式場に向ふ。

名にし負ふ清見瀬は數日前の風のため幾分高まつた浪のうねりが思ひ出したやうに白馬を走らせ、早朝のため海水浴の客も未だ出ず、唯船や網の手入れをする白龍のお仲間が此處に三人、彼方に一人立ちつ座りつ仕事にいそしんでゐる。伊豆半島が薄墨色に東に横はつて浦の景色を一層引締めて美しいものにしてゐる。悠々遊んだら面白からうなどと勝手な事を考えながら海岸に接した三間から四間の坦路を進む。と薩埵の鐵道線路を踏切ると直に急勾配と急屈曲の交錯した狭い山腹道路を上下左右に曲り迂つて進まなければならなくなり、自動車は速力をズツと緩めてクルくと運転手の操るハンドルの動きが甚だ急である、清見瀬の景色に恍惚としてゐた眼は断崖を恐れ山腹に衝突することを怖ぢさせた、が由比の町に入り停車場近くなつて路幅も相當廣くなり急坂も無くなつてホツト一息吐いた。興津近くの景色の良い所の次は此の悪路があることは極樂の隣りに直に地獄があるやうなもので、地元の人が苦痛を訴へるも道理早く改良しなければならぬ。富士川橋が出来、安倍川橋や箱根峠の改築が済んで、東京静岡間の交通設備が略完成した今日、僅々一千間足らずの

由比町の中程には由比正雪の出生の家が、平野代議士邸となり合つて現存してゐる、矢張り紺屋を營んで居り姓は吉岡とか、石の白が店頭にあつたのを車上から瞥見したまゝ通過してしまつた。蒲原町あたりから、老幼男女が着飾つて一様に東を指して歩いたり車や自轉車などで向つてゐるのを見初めた。丁度舊暦のお盆だから鎌入りか、その歸りかと思えば、皆富士川橋の開通式を見に行く人たちださうであつた。富士川町に入り岩淵停車場あたりからは人數も頗る増して、町の青少年團（主として小學生）が「交通整理」「左側通行」と大書した幅廣の紙製大襷を肩から斜にかけて、棒を持ち、道路の中央に立つて交通整理をやつてゐた。これは中々の殊勳者で、通行者に非常に良い感じを與へ、道路の真中で截然と交通の流れを振分けてゐた、主宰者の盡力に謝意を表する次第である。橋に近づくに従つて、人出は益々多く、此の小交通整理者の手を以てしては整理し切れない人の渦巻をなしてゐた。式場に接した休憩場まで人波を押し分けて進み、一服休憩する。

定刻の午前十時振鈴を合図に開通の式は始められた。神事、玉串奉奠が終つて、百瀬縣土木課長の工事功程報告、知事式辭、内務大臣、道路改良會長、縣會議長、地元兩都長、兩村

長、祝賀會長の順序に祝辭朗讀があつて式は終了、次で渡初の式があり、東畔に到り終つて水神の森の祝賀會場に於て祝宴が開かれた。水野本會會長がその席上で起つて更に一言の挨拶と祝詞を述べられ萬歳三唱の發聲までせられたのは參列者一同に異常の感激を與へたのであつた。

富士川橋の設計の詳細は、本誌七月號に紹介せられてゐるから茲には省略するが、此の堂々たる橋は東海道々路交通に今後無限の便益を齎すもので、永く世の幸福のために貢獻することであらう。

當日は近郷からの人出は三萬と註せられ富士川磧に、兩橋畔に、文字通りの人の黒山であつた。兩橋畔に設られた大緑門、橋の上部横構に蜘蛛手に張られた萬國旗、色モールの飾りに、別稿記載の道路改良宣傳劇、活動寫眞（夜間）、花角力の催しもの之外、地元の人達の思ひ思ひの飾物、囃子屋臺を橋を中心練り廻らせ、引きりなしに打上げられる花火と、人の渦とが交錯してお祭以上の賑ひであつた。それは皆附近の人の富士川橋の竣工を喜び感謝する聲であり、色であり形であるのだ。

靜岡縣當局は、今、箱根峠、安倍川橋の改築に次で本橋都合三ヶ所の大工事を完成し、尙東海道第一の大河大井川の

架橋工事の執行中である。四十數里の東海道國道を持ち且つ大河川を四線も抱えてゐる靜岡縣の道路改良事業は、大事業に違ひないが、常に倦むことなき努力を以て着々改良の事績を擧げつゝある當局に謹んで敬意を拂ひ併せて將來一層の盡力を切望して止まない。因に當日内務大臣の寄せられた祝辭は左の通りである。（谷口生）

抑東海道ハ我國交通ノ幹線トシテ交通運輸ノ上ニ至大ノ關係ヲ有スルニ拘ラス數條ノ大河貫流シテ而カモ完全ナル架橋ノ設備アルナク近代交通ノ要求ヲ充ス能ハス此ノ地亦纔ニ渡船ニ依リテ交通ノ連絡ヲ圖ルニ過キサリキ今仍チ精緻ナル規畫ノ下ニ架橋ノ全キヲ見ル惟フニ本橋ト義ニ竣功シタル安倍川橋トハ俱ニ東海道ニ於ケル架橋ノ双璧トシテ交通上重キヲナスト共ニ地方ノ發展産業ノ開發ニ資補スル所極メテ大ナルモノアルヲ疑ハス冀クハ今後之カ管理維持ニ努メ以テ長ニ本橋ノ効果ヲ完カラシメラレンコトヲ一言所懷ヲ述ヘテ祝辭トナス

大正十三年八月十七日

内務大臣 若槻禮次郎